

1 学年だより

夢の宅配便

1 年学年主任

水野 昌代治

小田急線での出来事

私は小田急線を利用して城山中学校に通勤しています。秦野駅で時々、知り合いではない40代ぐらいの男性とよく会います。この男性はいつも大声で一人で話をしています。彼の大きな声は静かな朝のホームに良く響くので、みんなが彼を見ます。彼は野球が好きなようで、話の内容は野球に関するばかりです。「昨日の試合は3対2で広島勝利。2回の表の〇〇選手のホームランが勝利の決め手となった。」というように試合の流れを話したり、「巨人の原辰徳選手の通算打率は〇〇です。」というような選手のデーターを話したりします。マニアックな話題も多く、本当に野球が好きなんだなと思います。

彼は、声が大きいのでみんなの注目するところとなりますが、楽しそうに話している彼を見ていると、なぜか聞いている私たちが元気をもらえた気になります。歩きながら自分の世界に入って大声で話している様子を見れば、彼が障がい者の方だとすぐに推測できます。

先日、家を出るのが遅れて、駅について慌てて電車に乗り込みました。息を切らせながら車内の椅子に腰かけると、大きな声が聞こえてきました。彼が、電車の中でいつものように野球の話を楽しそうに話していました。この日の話は読売巨人軍の歴代の監督の話でした。すると、彼の目の前に座っていた中年の男性が「うるせえなあー、朝から、静かにしろよ！お前、どこかに行けよ！」と彼を怒鳴りつけました。怒鳴られた彼はどうなってしまうんだろうと心配になりました。彼はシュンとなって隣の車両に移動していきました。移動してしばらくたつと隣の車両からいつもの彼の元気な声が聞こえてきました。その声を聞いてホッとしました。障がいを持っている人に「うるせえなあー。どこかに行け！」と怒鳴りつけた言葉のほうが野球の話をしている彼の話よりも私の心に残り、いやな気持ちにさせられました。

怒鳴った中年の男性は、そのあと居眠りをして隣の人に寄りかかっていた。隣の人が迷惑そうな表情をして困っていました。その姿を見て、「あなたも人に迷惑をかけているよ。」と叫びたい気持ちになりました。